

【概 要】

平成28年度 東京都自立支援協議会第一回本会議 全体会①記録

出席者 沖倉会長、高沢副会長、海老原副会長、遠藤委員、河井委員、柴田委員、鈴木（康）委員、出保委員、西脇委員、古川委員、本多委員、山梨委員、山本委員、和田委員
14名出席

開会	
小林課長 (事務局)	第1回本会議欠席者の報告 近藤委員、鈴木（卓）委員、中山委員、平川委員 4名欠席
藤井センター所長挨拶	
小林課長	平成28年度4月1日付委員交代された委員の紹介 遠藤委員（羽村市福祉健康部） 鈴木委員（渋谷区保健所） 出保委員（杉並区保健福祉部） 西脇委員（障害者施策推進部） 中山委員（品川区福祉部）
小林課長	資料確認 次第 資料1 第四期東京都自立支援協議会委員名簿・グループ別名簿 資料2 東京都自立支援協議会設置要綱 資料3 障害者（児）ケアマネジメントの過程における相談支援専門員・サービス管理責任者等に求められる視点、行動 資料4 平成28年度東京都自立支援協議会活動計画 資料5 平成28年度地域自立支援協議会交流会企画（案） 参考資料1 計画相談支援 関連データ（都道府県別：実績） 参考資料2 計画相談実績 関連データ（市区町村別：実績） 参考資料3 障害者総合支援法関連研修平成27年度実績及び平成28年度実施予定 参考資料4 基幹相談支援センター体制整備運営マニュアル（冊子） 高沢委員提出資料 武蔵野市相談支援専門員ガイドライン（冊子）
【議事】	
沖倉会長	（挨拶）
小林課長	報告事項と説明。 資料3（ワークシート）について説明。 第四期テーマ「相談支援専門員を中心とした地域の相談支援体制を考える」について、「どのような人材を育てていくのか」について検討を行う。 昨年度は、本会議3回、交流会を1回開催、一貫してこのテーマで協議を行った。 具体的にはワークシートを活用し、障害者（児）ケアマネジメントの過程における

	<p>相談支援専門員、サービス管理責任者等に求められる視点、行動について議論をした。</p> <p>昨年度第三回本会議において、ワークシートを整理し、最終版を第一回の会議で配布することとした。詳しい説明は割愛、整理した点、主な変更点を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを縦に相談支援専門員、サービス管理責任者、行政と三分割していたのを一本化して整理する。理由は、それぞれの視点・行動に特化した記載が少なく、これはこの三者が同じ視点・行動を共有していることが重要であることの表れであると考えられるため。 ・サービス実施からモニタリングの枠の項目4番目“現実にはないサービスの把握”を追加。 ・エンパワメントの枠、“本人の主体性を発揮できるための信頼関係の構築”という視点と行動を追加。 ・連携の枠では、視点と行動について再構成。障害以外他分野との連携等の新たな提案を追加した上で、連携の必要性の理解、連携作り、活用の3ステップに再構成。
<p>小林課長</p>	<p>平成28年度自立支援協議会活動計画について説明。</p> <p>資料4説明</p> <p>第四期テーマ「相談支援専門員を中心とした地域の相談に支援体制を考える」から、27年度は「どのような人材を育てていくのか」を検討、相談支援専門員の持つべき力量についてワークシートを活用し、議論を行った。</p> <p>28年度は「どのように人材を育てていくのか」、「どのように支えあっていくのか」について、交流会・セミナーを活用し、検討と情報共有を図っていく。具体的には、第一回本会議において相談支援専門員の人材育成に関する地域の取組について、課題、具体的方策等についてグループ討議をしていただく。それを事務局等がまとめ、交流会、セミナーのテーマとし、情報提供、共有を進め、結果について第二回本会議で報告する。</p> <p>○日程について</p> <p>第一回本会議 本日</p> <p>地域自立支援協議会 9月16日（金曜日）</p> <p>東京都自立支援協議会セミナー 12月9日（金曜日）</p> <p>第二回本会議 平成29年3月頃</p> <p>資料5説明</p> <p>○平成28年度地域自立支援協議会交流会企画（案）</p> <p>目的 ・地域自立支援協議会関係者の交流の場を設定し、協議会の活動状況等に関する情報交換を実施することにより、地域協議会の円滑な運営や活動の活性化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都協議会として、地域協議会の活動状況についての状況把握を図る。 <p>対象者：都内地域自立支援協議会関係者。</p>

	<p>実施方法：交流会テーマ「地域で育てる仕組み、支える仕組み」（案）～地域で相談支援を担う人材を育て、支えていくための方策について～</p> <p>事前準備：参加希望のあった市区町村に対して、テーマに関する協議会の活動・成果物や区市町村の取組みを調査。</p> <p>話題提供：市区町村における人材育成の考え方などについて情報提供</p> <p>グループ討議にて意見交換、情報交換いただき、最後に討議のまとめを実施。</p> <p>○セミナーについて</p> <p>12月9日開催</p> <p>目的：障害者総合支援法における相談支援体制のしくみや人材についての課題や取組について、都協議会本会議の検討等を踏まえた講演及びシンポジウムを実施することにより、広く関係者への情報発信を行う。</p> <p>対象者：協議会関係者だけでなく、広く関心のある都民の方も含む。</p> <p>○地域協議会の情報共有・発信について</p> <p>「東京都内の地域自立支援協議会の動向」の発行</p> <p>27年度版の発行と28年度版の作業を行う。第二回本会議で報告をする。</p>
沖倉会長	平成27年度版動向集、進捗状況はいかがか。
小林課長	ほぼすべての区市町村から回答を得ている。回答の内容の確認作業中。
沖倉会長	<p>グループ討議について、交流会でどのような話題提供を求めるのか。どのようなテーマで進めたいのか。皆さんに意見を伺い、それをいただき具体的に整理し、会長、副会長、事務局でまとめ、開催についてお伝えする。</p> <p>9月の交流会についてはテーマ等、後日お伝えする。委員の皆様には参加していただき、グループ討議の進行のご協力をいただきたい。</p>
高沢副会長	<p>「武蔵野市相談支援専門員ガイドライン」の説明。</p> <p>武蔵野市自立支援協議会の事業で昨年作成、本日の参考になればと提供した。相談支援部会の中で作る。第1稿の内容は学校のテキストのようで、実際に相談支援専門員が使えないだろうということがあり、市の社会資源、地域の独自性、精神科病院があること、特別支援学校があり、知的、発達障害の方が多いなど、内容を修正した。使ってもらい相談支援専門員の技量をあげ、地域のビジョンも指し示すことになるのではないかと作成した。</p>
小林課長	<p>参考資料説明</p> <p>参考資料1 計画相談支援 関連データ（都道府県別：実績）</p> <p>参考資料2 計画相談実績 関連データ（区市町村別：実績）</p> <p>参考資料3 障害者総合支援法関連研修平成27年度実績及び平成28年度実施計画</p> <p>参考資料4 基幹相談支援センター体制整備運営マニュアル</p>
西脇委員	<p>参考資料4の説明。</p> <p>基幹相談支援センター体制整備運営マニュアルについて、基幹相談支援センター設置の促進するため、行政マニュアルとして区市町村向けに配布をした。作成に当た</p>

	<p>っては都内の基幹相談支援センター、相談支援事業所にアンケートを実施した。基幹相談支援センターについては、作成時の調査では17区市町で立ち上げ済み、その他の区市町では立ち上げるという予定のあるところもあるが、半数の区市町で未設置の状況がある。</p>
小林課長	<p>グループ討議の進め方について 今回のグループ討議のテーマは「相談支援専門員の人材育成における、地域の取組」。議論していただいたことを踏まえ、事務局で課題、参考になる事例等を抽出し、交流会、セミナーに反映して、情報共有を図っていく。望ましい人材像についてまとめたワークシートや武蔵野市のガイドラインなども参考にして、議論いただければと思う。</p>
沖倉会長	<p>グループ討議では、前回までの議論では、どのような人材を育てていくのか、どういう人材が欲しいのかということで、いろいろな視点でお話いただいた。今回からはそのような人材をどのように育てていくのか、研修に何を求めるのか、地域で育てていくときにどのような仕組みが必要なのかについて、実践例、研修例など、情報交換していただく。良い事例は、その自治体だから出来る等となってしまうがちだが、良い事例だと思ったのであれば、なぜそう思ったのか、何か面白いものを提示していただいた時には、どの部分が面白いのか、具体的に理由や事情をお話いただきたい。</p>